

令和3年度 白鷹町立荒砥小学校 経営の基底

1 めざす姿

- ① 校 是 「琢磨」
- ② 学校教育目標 勉強だいすき、かしこい子ども
心やさしく、正しい子ども
進んで行動、やりぬく子ども
みんなでスポーツ、きたえる子ども
- ③ 学校像 「元気！ 本気！ 琢磨校」
「できる」笑顔輝く学校「のびる」勢いある学校「かかわる」みんなの学校
- ④ 子ども像 「あいうえお名人」（あいさつ いい姿勢 歌声 鉛筆 思いやり 名人）
- ⑤ 大人の姿 「四かけ人」（手をかける 声をかける 目をかける 心をはける）



2 方針

- (1) 学習指導要領、第6次山形県教育振興計画後期プラン、第6次白鷹町総合計画等を礎に、伝統と新鮮さの光る経営で、創立150周年を迎える白鷹町の中心校としての使命と、白鷹町学校研究発表会会場校としての役割を果たす。
- (2) 児童の実態に即し、資質能力を育む“わかる楽しい授業”、学校家庭地域が連動した“じりつ”の歩み、白鷹町学校教育研究所の財産である“白鷹スタンダード”で、子ども一人ひとりに確かな力（学力、自尊心、健康・体力）を育成する。
- (3) 自分と友達を大切にする子どものかかわり、寄り添い、認め励まし、愛着を生む大人のかかわりから、安心できる居場所を生み、細やかな見取りや教育相談でいじめ撲滅を期す。
- (4) 個のニーズに応じた合理的配慮を全校ですすめ、特別支援学級・通級指導教室の経営を充実させながら、小さなのびを保障する特別支援教育を浸透させる。
- (5) 学校運営協議会と連携し、地域力を積極的に活用する“社会に開かれた教育課程”のもと、学校・家庭・地域がともに歩む信頼される学校づくりをすすめる。
- (6) 教育活動の根幹を見極め、効果と効率を高めるマネジメントで、子どもに力がつき、教職員のやりがいを生む校務に改善し続ける。
- (7) 新型コロナウイルスへの対応等、“危機管理のさしすせそ”をもとに体制を整備・改善し、子どもの安心・安全を確保するとともに、コンプライアンスと施設設備管理を充実する。

3 重点

(1) 重点1 「学力と読書習慣をつける」

- <めざす子ども像>
- ① 主体的に学び、基礎基本を身につける子ども
 - ② 自分らしく考え、伝え、学びを深める子ども
 - ③ 文字や人の心に親しみ、読書に励む子ども

<目標達成への道すじ>

- ① 「主体的に学び、基礎基本を身につける子ども」の育成に向けて
 - ア 立腰や鉛筆の持ち方・書き方の約束をもとに整然として前向きな学習の構えをつくる。
 - イ ユニバーサルデザイン、ICT活用等による、わかる指導方法・体制にする。
 - ウ 家庭学習の充実と習慣化で、学習内容の定着と学びに向かう姿を保障する。
- ② 「自分らしく考え、伝え、学びを深める子ども」の育成に向けて
 - ア 理由や根拠を明らかにした“聞き、受け、返す”交流で、深い学びに導く。
 - イ 作文・標語・絵画・工作等への積極的な挑戦で、個性を伸ばし自信を育む。
- ③ 「文字や人の心に親しみ、読書に励む子ども」の育成に向けて
 - ア 教科等と連動した読書活動で、本に親しむ習慣を確立し、読み取る力と感性を磨く。
 - イ 家庭と連携した読書活動を工夫し、ことばの美しさと人の温もりを感得させる。

(2) 重点2 「自尊心と自主の心を育てる」

- <めざす子ども像>
- ① 自分も相手も大事にする子ども
 - ② あいさつ自慢の明るい子ども
 - ③ マナーよく力を合わせる子ども

<目標達成への道すじ>

- ① 「自分も相手も大事にする子ども」の育成に向けて
 - ア 自分も相手も優しくなる“思いやりの仕草（言葉・行い）”で校内を満たす。
 - イ 心が安定し、自分らしく生きる力を育む、教育相談と適応指導をすすめる。
- ② 「あいさつ自慢の明るい子ども」の育成に向けて
 - ア 子ども自ら“荒砥小学校の伝統”として誇ることができるあいさつを日常化する。
 - イ 家庭や校外でのあいさつを啓発し、ひとみ輝く元気な姿から地域に活力をもたらす。
- ③ 「マナーよく力を合わせる子ども」の育成に向けて
 - ア 気づき、考え、実行する児童会活動・異年齢集団活動で、やる気とやさしさを育てる。
 - イ きまりを守り正義を尊ぶ、規律ある穏やかな学級集団と校内生活を創る。

(3) 重点3 「『じりつ』と運動能力を育てる」

- <めざす子ども像>
- ① “早寝・早起き・朝ごはん”ができる子ども
 - ② 安全に行動し、いのちを守る子ども
 - ③ めあてを持ち、意欲的に体を動かす子ども

<目標達成への道すじ>

- ① 「“早寝・早起き・朝ごはん”ができる子ども」の育成に向けて
 - ア 正しい生活リズムと清潔習慣、心を育む食育で、じりつした生活を確立する。
 - イ 家庭と連携した取り組みを工夫し、しなやかな心と体をつくる。
 - ウ 家族や仲間、教職員との愛着から、前向きなエネルギーを全開にする。

- ② 「安全に行動し、いのちを守る子ども」の育成に向けて
 - ア 自他の心身を大切にする「いのち」の教育を充実する。
 - イ 防災と交通安全を切り込み口に、自ら判断し、自ら動く安全教育をすすめる。
- ③ 「めあてを持ち、意欲的に体を動かす子ども」の育成に向けて
 - ア 運動する楽しさを知り、意欲と体力・運動能力を伸長する体育を経営する。
 - イ 各種大会に積極的に挑戦させ、努力と切磋琢磨で、体力・運動能力と自信を育む。

(4) 重点4 「学校愛と郷土愛を育てる」

- くめざす子ども像>
- ① 学校が大好きで、みんなといっしょにがんばる子ども
 - ② ふるさとが大好きで、みんなのために役立とうとする子ども
 - ③ 伝統をみがき、“ほこり”をもつ子ども

<目標達成への道すじ>

- ① 「学校が大好きで、みんなといっしょにがんばる子ども」の育成に向けて
 - ア たくまバンド活動や諸行事等を工夫し、“琢磨校”を自慢できる心を育む。
 - イ 幼小中高の連続した育ちを保障し、本校のよさを実感させる。
- ② 「ふるさとが大好きで、みんなのために役立とうとする子ども」の育成に向けて
 - ア 子どもが育ち地域が元気になる、地域性と人間味豊かな教育活動をすすめる。
 - イ 学校運営協議会を中核に、安心・安全・愛着を保障する教育活動・教育環境にする。
- ③ 「伝統をみがき、新しいことに挑戦する子ども」の育成に向けて
 - ア 校是「琢磨」を常に意識し、「あいうえお名人」をめざして自ら取り組む活動を創る。
 - イ PTAとの連携を強め、家庭・地域で、大人も育ち子どもも育つ活動を創る。

4 経営上の留意点

- (1) 創立150周年の節目を意識し、「めざせ！あいうえお名人」を合言葉に教育活動を展開する。指導部の活動を重点化・焦点化しながら、山場を「学習発表会」と「学校研究発表会」に置き、学校経営の状況を子どもの姿として公開する。
- (2) 今日的課題に対する新鮮な取り組みを継続・充実する。
 - ア 「いじめ防止基本方針」をもとに、“危機管理のさしすせそ”をキーワードにしなが、いじめの未然防止と早期発見、いじめの撲滅に向けて全力をあげる。
 - イ 教科指導はもとより、道徳、外国語、プログラミング、ICT等を充実させ、“主体的・対話的で深い学び”を推進する。「学力向上」については、積極的な生徒指導で礎を築き、家庭・地域と連携して全校で取り組む。
 - ウ 白鷹町学校教育研究所による「白鷹スタンダード」の具現をめざし、学校家庭地域連携、校種間接続を意識した指導を強化する。
 - エ 白鷹町学校教育研究所のじりつ特別委員会が提唱する「愛着」の構築をめざして、心と体を育む家庭連携の取り組みをすすめ、家庭教育力の向上をめざす。

- オ 特別支援教育委員会を定期開催し、全職員で子どもの育ちを共有する。また、保護者と密接に連携し、個々のニーズに応じた合理的配慮による細やかな指導で育ちを保障する。
- (3) 学校評価等を活用し、P D C Aのサイクルで経営改善を日常化する。
- ア 校是や学校教育目標等の「めざす姿」をもとに子どもを見つめ続け、実態に即したねらいで教育活動を積み上げる。
- イ 子ども・教師・保護者アンケート等をもとに、伝統を磨き新鮮さを生む経営につなぐ。
- ウ 学校運営協議会と連動し、多角的な見地から経営を見つめ直し、学校を創る。
- エ 校務や事務を重点化・焦点化し、子どもとふれあい語り合える時間、教職員が心にゆとりを感じられる時間を創出する業務改善で、働きがいのある明るい環境をつくる。
- (4) 本校らしい教育活動を磨き続け、勢いある経営で、信頼される元気な学校づくりをすすめる。
- 知 白 鷹 ⇒ 白鷹町学校教育研究所で作成した「笑顔かがやく白鷹人7」をめざすスタンダード し、「学びのスタンダード」「生活のスタンダード」「家庭学習の手引き」を、家庭と共通理解・共通実践する。
- 知 学力強調月間 ⇒ 6月と11月に実施する。学びのスタンダードの重点化、級外や地域ボランティアとの協力的な指導、自主学習啓発による家庭学習の充実等で、基礎基本の確実な定着と活用力の向上を図る。
- 知 たくまバンド ⇒ 金管楽器やフラッグ等5・6年生全員で構成し、運動会や地区レク大会で発表して、地域に元気を届け、子ども達の自信を育む。
- 徳 あいさつ運動 ⇒ 児童会による子ども主体、P T Aによる家庭連携の活動であいさつ名人を生む。学校・家庭・地域で子どもを育てる手立てにもなる。
- 徳 読みきかせ ⇒ P T A母親委員会や町図書館と連携して実施する。本に親しむとともに読み手の温かな人柄にふれ、頭と心を育てる時間にする。
- 徳 幼小交流活動 ⇒ 年長児と1年生や5年生による子ども交流、入学前後や休業中による職員交流で、幼児期と小学校期の円滑な接続を保障する。
- 体 全員外あそび ⇒ 晴れた日の中間休みは、原則として全員が外にでて群れ遊ぶ。心を開放した友達との楽しい時間で、体を動かす楽しさを実感させる。
- 体 体力づくり ⇒ 週1回朝の活動で体力づくりの時間を設定し、体力の向上と運動の日常化を図る。
- 体 生活リズム ⇒ 年3回強調週間を設定し、家庭と連携して正しい生活リズムを身につける。“じりつ”につなげる大きな手立てにもなる。
- 郷 地域の先生 ⇒ 総合的な学習やクラブ活動等で地域の方から専門的なご指導をいただき、地域のよさとそこに住む人の温かさを学ぶ。
- 郷 たくまっ子見守り隊 ⇒ P T A全会員が見回り隊・見つめ隊・声かけ隊のトライアングルアクションに参画し、子どもの安全確保、健全育成に努める。
- 郷 べにばな学習 ⇒ 3年総合的な学習で行う。種まき、花摘み、染色までの一連の体験で紅花日本一であるふるさとのよさを学ぶ。